

# 第一回 海の中道海浜公園魅力向上推進協議会

## <議事要旨>

■日時：令和 2年7月30日（木）10：00～12：00

■場所：国営海の中道海浜公園事務所

### ■国営海の中道海浜公園魅力向上推進協議会の設置について

○協議会規約について原案の通り了承され、会長に包清委員が選任された。

### ■公園の将来像（ビジョン）の作成について

①本公園の基本計画が作られた時代（S51）は、社会が成長期にあり、次々と新しい計画が考えられていたが、現在は施設の老朽化に伴う維持管理・更新等が課題となっている。本協議会で策定したビジョンも同様に、時代の変化によって古くなってしまふ可能性がある。策定するビジョンの計画期間は今後何年程度のものと考えているか伺いたい。〔有識者〕

→計画期間は概ね10年を想定している。〔公園管理者〕

②社会情勢の変化に適応しながらビジョンを定期的に見直し、改めて整理するのは新しい試みである。都市の縮退の時代を迎えた今の日本の状況を踏まえ、どのように見直していく方針であるのか伺いたい。〔有識者〕

→整備・維持管理費が限られていることから、メリハリのある整備・管理を行っていききたい。そのメリハリをどのようにつけるかについて、本協議会で意見を頂き、ビジョンへ反映したい。また、昨今の新型コロナウイルスのような大きな社会状況の変化もあるため、10年を待たずとも随時ビジョンの見直しが行えるようにしておきたい。〔公園管理者〕

### ■将来像のキーワードについて

①人口減少社会において、多様な世代が主体的に関わるには公園として「場づくり」が必要になると考える。現状の利用者ではどの世代が多く、またどのような利用がされているのか伺いたい。〔有識者〕

→利用者層は、家族連れがおおよそ5割程度、友人・知人、夫婦、カップルが1割と、ファミリー層が中心となっている。地域や職場の団体での利用は少ない傾向にある。また年齢層では、10～40代が多く、50～60代が少ない。したがって現状は若年層の利用に偏っているといえる。〔公園管理者〕

②大学の学生に聞くと、幼少期には訪れたが、成長するにつれ行かなくなったという意見があった。公園に行けば、水辺のスポーツが楽しめる、こんな食が楽しめる、などのプランを提供することで、公園から遠ざかっている世代の関心を惹きつけることができるのではないか。〔有識者〕

③「アクティブシニア」の学び直しの場合、主体的な参加を促す仕組み作り等も必要となってくるのではないか。〔有識者〕

④重要なのは資料6と考える。今あげられている「現状」のキーワードに加え、「将来」を見据えた、本公園としての独自のあり方を表すキーワードを盛り込むと良いのではないか。例えば、福岡市にとってこの半島がある意味、海に囲まれた特性をふまえた公園のあり方や、周辺一帯の生態系のあり方等についても、10年後にむけたビジョンを示すべきでないか。少し先の未来のことを考えた骨太の方針が必

要である。[有識者]

→現状だけでなく、将来を見据えたビジョン、キーワードを考えたい。[公園管理者]

⑤日本ならではの、九州ならではの、福岡ならではの「独自性」という視点から、公園の魅力をどのように進化させていくのかという点についても本協議会で検討し、九州の都市公園の規範となりうるビジョンを作りたい。[有識者]

⑥先日の豪雨の際、本公園も一部冠水したと聞いたが、予算も限られる中、全園で排水機能を高めるのではなく、ある程度水がたまることを許容して公園内で自然に貯留、浸透させる場所をつくる、あるいは自律的にエネルギーが循環するような仕組みを作ることなども考えられる。[有識者]

→検討する。[公園管理者]

⑦計画を策定するなかで、一人一花や健康づくり等、福岡県、福岡市の計画や取組みと調整し、整合性を持って連携し合うことができれば良い。[有識者]

→難しいテーマではあるが、国として積極的に取り組んでいきたい。[公園管理者]

以上